

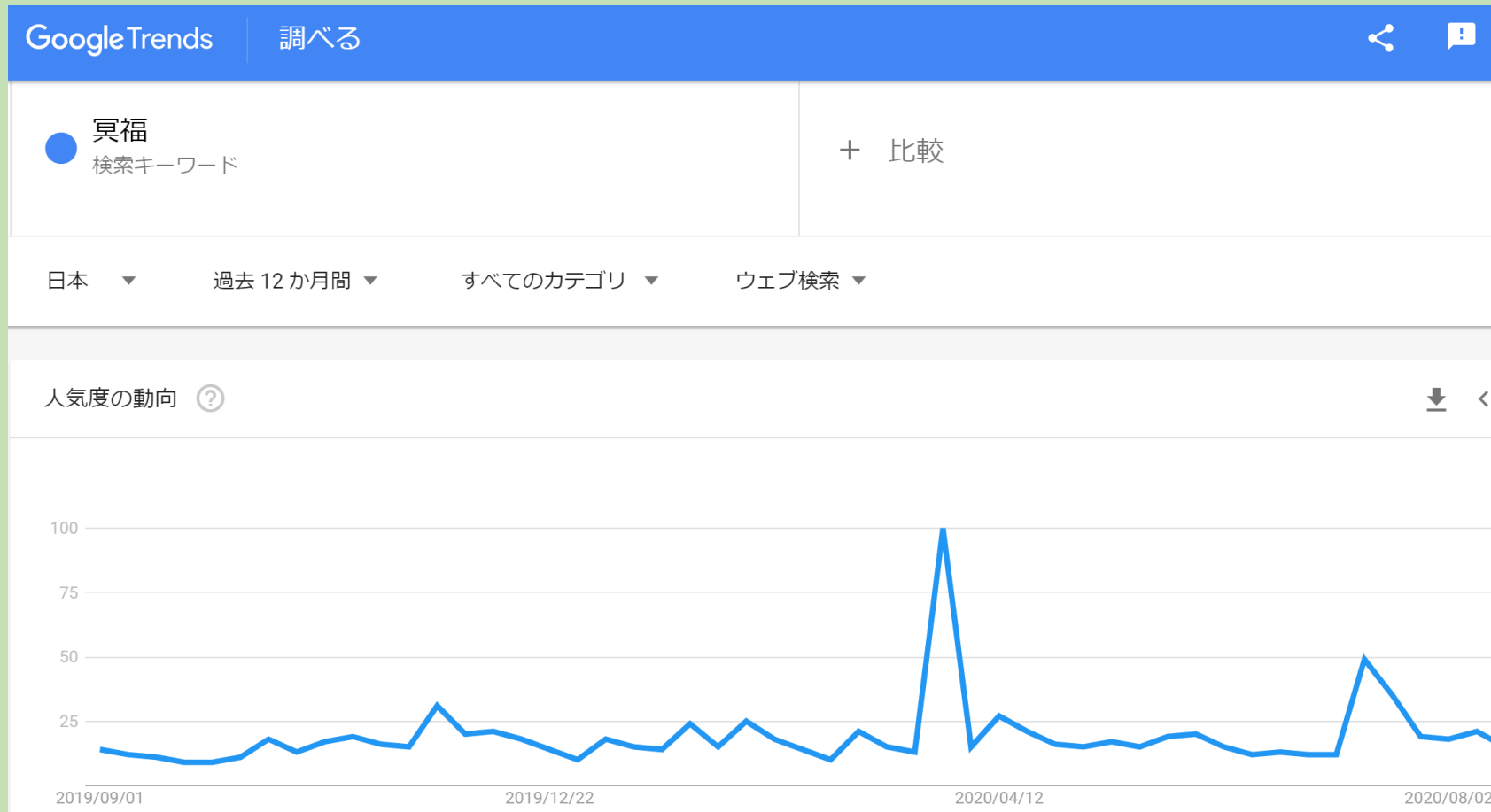
概要説明

浄土宗総合研究所研究員
東海林良昌

概要説明

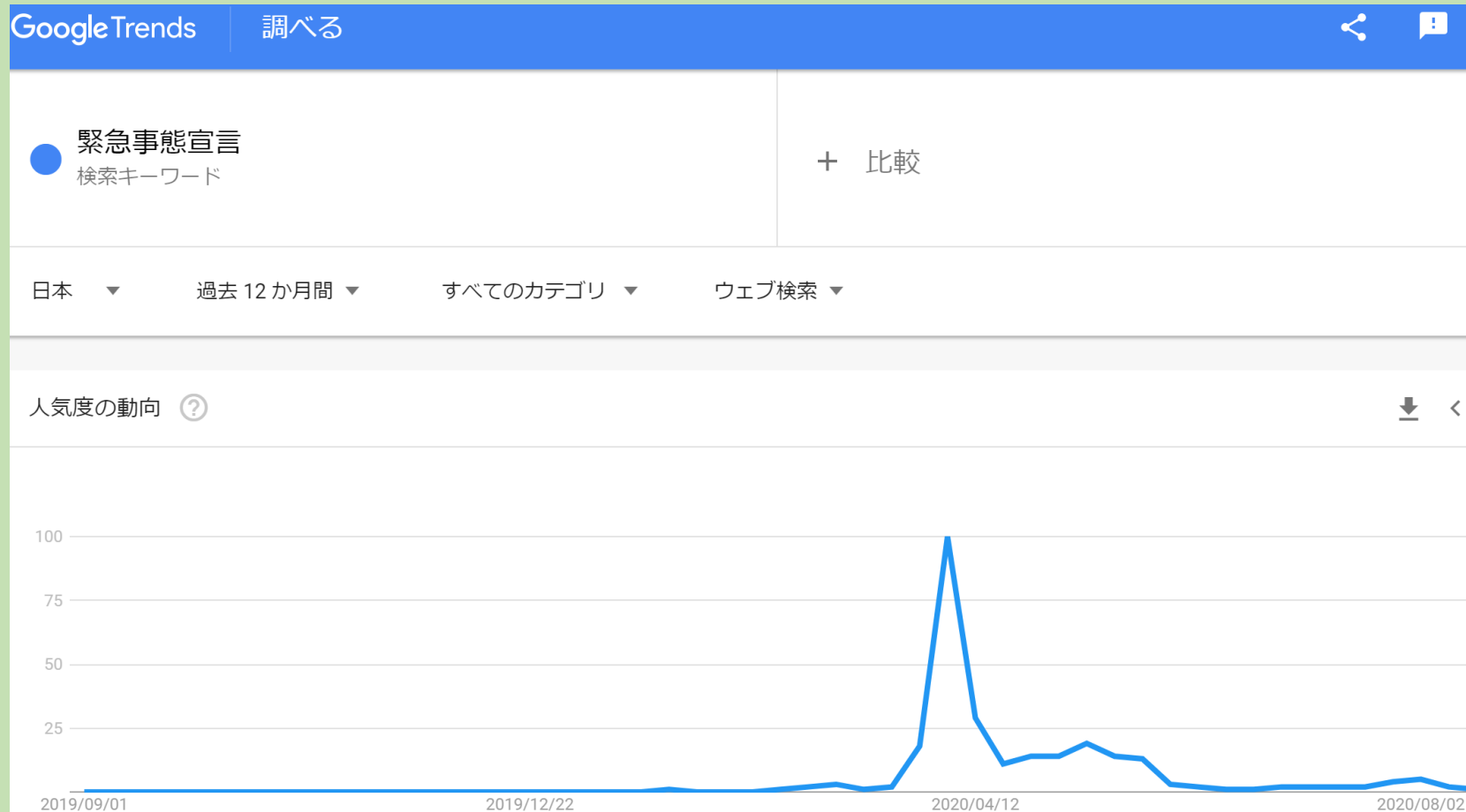
- 世界的 中00
世。界00
のたせ8
のしで6
ス言ま約
ル宣在も
イを現で
ウ」、本
ナ」ら日
口行か。
コ流てる。
型大れあ
新なさで
、的認方
に界確の
日世ス人
1のル万
1症イ4
3月染ウ
年（口は
0クコ数
2ツ型者
0ミ新死
2デに、
はン末し
）パ月染
0「二感
Hて十が
（Wい年
関に一0
機大〇0
健拡二5
保染で2
界感国約
世な中
0
- 七さ在て
の大現っ
岡拡、送
福にれを
、国さ活
庫全除生
兵は解く
、言に深
阪宣日意
大の5注
、そ2が
川に月人
奈日5各
神6はで
、1言中
京月宣の
東4同
葉、たマ
千後っ一
、の行ノ
玉そを一
埼、活ユ
に、生ニ
日発自式
7をの様
月言で活
4宣宅生
年態在い
本事がし
は急体新
府緊全る
政に民ゆ
国県国わ
本府、い
日都れは
い。
- 染うんな
感いいり
がとラ取
者るンを
信す才離
や亡、距
者死鎖的
教て閉会
宗しの社
でそ設、
施設、施
施染、で
教感は域
宗が体地
の者団た
等教教え
教宗宗迎
ヤた各を
ダっめク
ユわた一
、携のピ
、にそが
教にそが
ム送。況
ラ葬る状
ス、い染
イして感
、生っ、
教発こい
トが起行
ス染がを
リ感事道
キ団来伝
、集出や
はりい儀
でなし葬
外とまの
国源痛で
が
- 設してし
施し新
、そ成、
がた養
なれ者
しわ教
慮行宗
考がの
を導で
針指中
方踐る
の実す
体やを
治要理
自法管
、ン全
府イ安
政ラ開、
、ン開
例才再
事にて
の共業
外と事
海期諸
、延、模
はや降
で止以
体中除
団の解
教事の
宗行言
の諸宣
内、態
国鎖事
本閉常
日の非

Googleトレンドでの検索結果①



Googleトレンドで過去12か月間の「冥福」を検索すると、2020年3月29日～4月4日まで突出して検索数が伸びている。
→タレント志村けんさんが、3月29日にお亡くなりになっている。

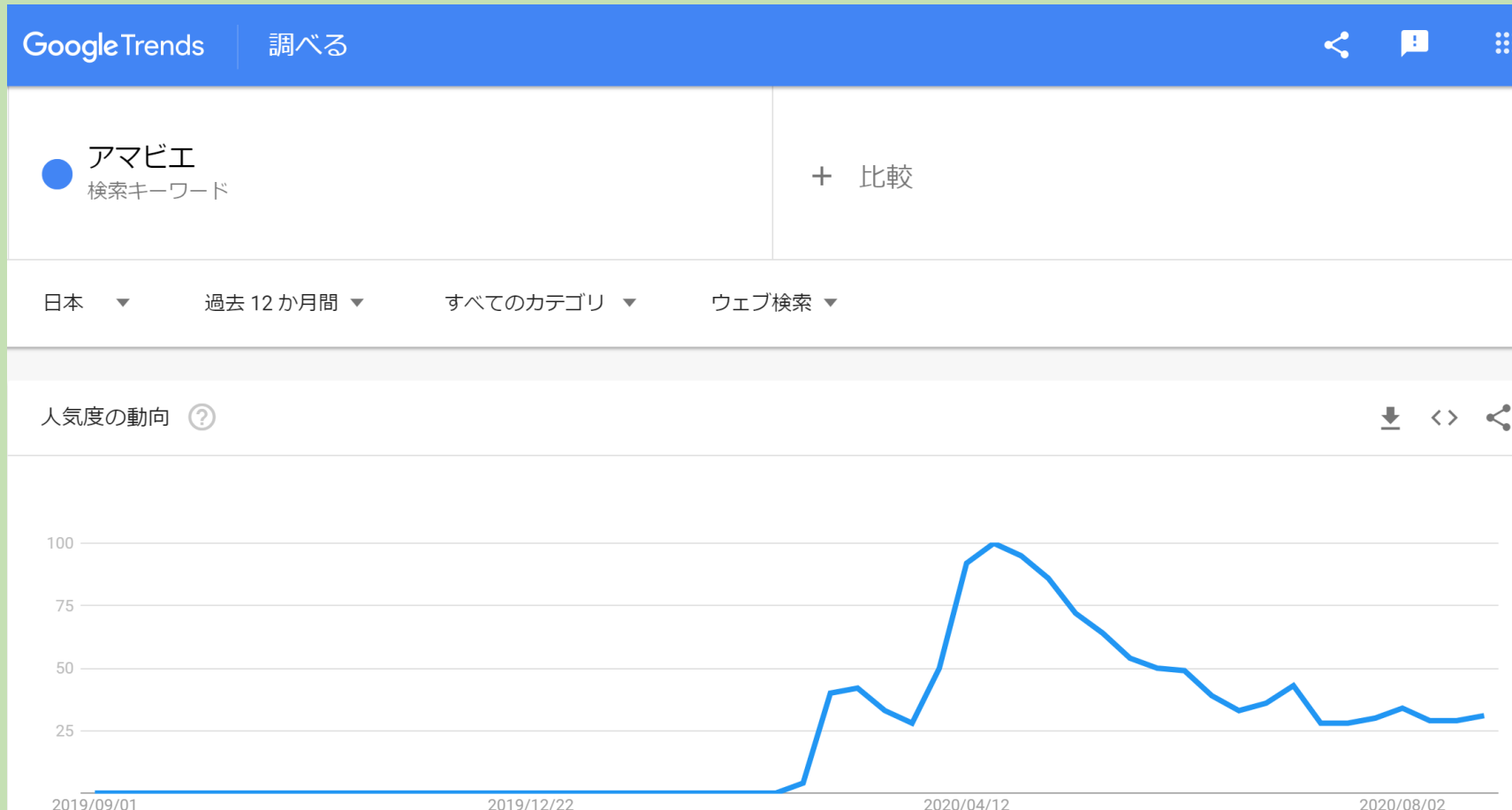
Googleトレンドでの検索結果②



同じく「緊急事態宣言」を検索すると、2020年4月5日～11日に検索数が突出して伸びている。
→4月7日に緊急事態宣言が発出された。

<https://trends.google.co.jp/trends/explore?geo=JP&q=%E7%B7%8A%E6%80%A5%E4%BA%8B%E6%85%8B%E5%AE%A3%E8%A8%80>

Googleトレンドでの検索結果③



同じく「アマビエ」を検索すると、2020年4月19日～25日に検索数が突出して伸びている。
→社会不安が妖怪（ゆるキャラ）として形になっている

コロナ禍における宗教教団（2020年8月末現在）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
浄土宗		21日寺院向け注意喚起 26日行事開催の基本方針 27日御影堂落慶法要中止発表	2日宗議会短縮開催 11日森田師ガイドライン	1日疫病終息祈願別時念仏（知恩寺） 初旬大河内師ガイドライン 大澤師ガイドライン 7日東京宗務庁休庁 9日宗ガイドライン 25日職員のみで御忌法要 26日境内閉門（知恩院）	1日総長メッセージ 3日伊藤猥下お言葉 11日オンライン理事総会（全浄青） 26日境内開門（知恩院）	10日道場開設へ議論	28日給付貸付金検討	
他宗		各宗宗会短縮	中旬～行事中止（各宗派） 23日総長メッセージ（大谷派）	1日宗費特例措置（曹洞宗） 2日宗派指針（真言宗豊山派） 3日早朝談話（曹洞宗） 14日念仏者としての声明（本願寺派） 17日法要宗派指針（大谷派）			17日祇園祭縮小開催	4日比叡山宗教サミット縮小開催（天台宗）
諸宗教		参拝者への注意喚起（真如苑）		7日葬儀法要についてのお願い（全仏） 26日東大寺正午の祈り	6日祈りの鐘（全日仏青）			
国内			13日新型インフル特措法一部改正成立	7日緊急事態宣言発出 16日全道府県へ拡大	4日新しい生活様式 25日緊急事態宣言介助		4日熊本豪雨被害 22日Gotoトラベル 29日山形豪雨被害	
諸宗教（海外）		14日全山閉鎖通知（中国仏教会） 20日教会で集団感染（韓国） 27日モスクでの集団感染（マレーシア）	イラン全土でモスク閉鎖 オンライン礼拝、葬儀（米国） 27日ローマ教皇特別メッセージ					
国際	31日「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態宣言」（WHO）		11日パンデミック宣言（WHO） 8日武漢市ロックダウン 中旬～世界各地でロックダウン		25日ジョージ・フロイドの死→ブラック・ライヴズ・マター			

・ 宗教教団等の動きのまとめ

- 2019年
- 12月末 中国国内で新型コロナウイルスが確認される
- 2020年
- 2月 国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態宣言（WHO）
- 3月 特措法一部改正成立 世界各地でロックダウン
中旬より各種行事中止
- 4月 緊急事態宣言発出 葬儀ガイドライン
各教団からのメッセージ 終息祈願法要
- 5月 新しい生活様式 緊急事態宣言解除 オンライン会議
- 6月 再開に向けた動き
- 7月 各地での豪雨被害 祭礼の縮小開催
- 8月 お盆

宗教界に対する主要な見解

- A 祈りの必要性
- B 科学との共存
- C オンラインの可能性と限界
- D 弱者への視点
- E 持続化給付金宗教法人見送り
- F 仏教の持つ考え方の可能性

参考資料

- 「祈りの必要性」（小野木康夫「今こそ祈りを」『文化時報』2020年3月4日）
- 「祈りに甘んじることなく感染拡大防止への協力を」（小野木康夫「祈りに甘んじるな」『文化時報』2020年3月28日）
- 「オンラインでの寄り添いは不足もあるが推進していく必要がある。イギリスでの医療者を讃える検討の拍手も新たな分かち合いの形。新たな様式に学んでいく必要がある」（島菌進「新型コロナ 新しい祈りとケアの形」『佛教タイムス』2020年4月9日）
- 「各教団が団結してメッセージを」（小野木康夫「何のための声明か」『文化時報』2020年4月25日）
- 「オンラインで伝わることの限界」（小野木康夫「画面の先が見えない」『文化時報』2020年5月16日）
- 「感染症への誤解や偏見をもとに行動すれば社会不安を増幅する。遺族の心を最優先に」（小野木康夫「遺体を怖がる僧侶」『文化時報』2020年5月30日）
- 「信教の自由を守るため、政府に助成金を求めるべきではない」（京都仏教会）→「給付金見送りは国民の理解が得られないという判断。情報開示を進め、周囲の人々に公益性を認めてもらうことが大切だ」（大橋学修「持続化給付金宗教法人見送り」『文化時報』2020年6月13日）
- 「見えざるもの（ウイルス）への恐れは、近代思想が隠蔽してきた死や死者を改めて呼び起こす。見えざるものとどう付き合うか。死後の責任も含めて、仏教の大きなスケールの世界観から、持続可能な未来を構築していくべき」（末木文美士「新型コロナウイルスと今日の課題」『佛教タイムス』2020年4月16日）
- 「オンライン教育が盛んに行われているものの、ネットにアクセスできない人々との教育格差が既に現れています。格差の拡大を招かまないための支援が急務」（山本英里「国際NGOから見た新型コロナ」『佛教タイムス』2020年6月4日）
- 「文明の転換期にパンデミックが出現したことを考えると利己から利他へといったような、コロナウイルスと共に生きる社会の方向性が明らかになっている」（加藤眞三「ウィズコロナの時代を生きる」『佛教タイムス』2020年7月9日）
- 「マイナスの環境にあっても、その人の生き方に応じた行の積み重ね次第で、プラスに転じる正しい判断力が養われる」（橋本真人「宗祖に学ぶコロナ禍を生きる知恵」『佛教タイムス』2020年7月23日・30日）
- 「医療従事者や困難の中にある方へ向けた法話、実践指導など、精神的な慰安を提供し困難に打ち勝つ力を提供することが大切」（佐藤厚「論」『中外日報』2020年4月10日）
- 「集会なき礼拝、個人化が進む。家庭内にとどまる信者の礼拝を支える工夫が模索され宗教のあり方が一変するかもしれない」（堀江宗正「時事評論」『中外日報』2020年4月）
- 「科学と共存しつつ、政治と一線を画するリベラルで理性的なスピリチュアリティが存在感を増すに違いない」（堀江宗正「時事評論」『中外日報』2020年5月29日）
- 「感染者が親族に看取られることもなく死に、そのまま火葬にされることを社会は経験した。それが今後の死生観や葬儀のあり方に何らかの影響を残さないだろうか」（「社説」『中外日報』2020年6月10日）
- 「前のめりになり「リスク」を無暗な覚悟をもって振り払うのではなく、正しく恐れ、感染防止の安全対策を講じた上で、段階的に開いていく、信じるものに安心を与えていくことが大切」（稲場圭信「安全と安心への対応を」「時事評論」『中外日報』2020年6月10日）
- 「オンライン授業で教師と学生に互いを慮る不思議な共同体意識が生まれいる。オンラインによる信仰共同体にも新たな可能性がある」（弓山達也「信仰共同体新たな可能性」「時事評論」『中外日報』2020年6月26日）
- 「宗教団体への持続化給付金の対象にすることが見送られた。東日本大震災時に政府に対し日宗連が宗教についても十分配慮してほしいという意見を提出。復興庁は直ちに国の施策の対象外となるものではないと回答したのに対し、日宗連は憲法20条、89条を引き合いに出し、復興政策から外されたという見解。解釈や是正の方法ばかりでなく、財団法人を通じた公金の弾力的な運用の例もある。宗教界の広い範囲の議論と理解を経る必要があった」（「社説 憲法第89条解釈」『中外日報』2020年7月1日）
- 「ウィズは共生ではなく共存の共である。全く無益だが、完全に排除しようとすれば日常生活のマイナスが大きすぎるから、やむを得ず一定のリスクを覚悟し、その存在の事実を受け容れること。」（「社説 ウィズコロナ？」『中外日報』2020年7月15日）
- 「宗教者には、個々の命の重みを説くことで社会の誹謗中傷の暴走に歯止めをかける役割があるだろう」（「社説 監視と排除の懸念」『中外日報』2020年7月17日）

本パネルの主旨

- 本パネルでは宗内有識者をパネリストに、この問題を浄土宗のみならず宗教界全体の問題としてとらえ、その中でウィズ・コロナ時代に仏教寺院がどう向き合うかを議論することにより、これからの展望を見出していききたい。